

鶴見区区政会議 平成 30 年度第 1 回防災・防犯部会議事録（要旨）

- 1 日 時 平成 30 年 6 月 29 日（金） 19 時 00 分～20 時 52 分
- 2 場 所 鶴見区役所 4 階 403・404 会議室
- 3 出 席 者
（委員）
田中部会長、西口副部長、内野委員、岡出委員、西村委員

（区役所）
河村区長、野村副区長、尾崎市民協働課長代理、前田市民協働課担当係長、
黒田市民協働課担当係長
- 4 議 題
 - 1 平成 30 年度鶴見区区政会議の進め方について
 - 2 平成 29 年度鶴見区取組み実績・評価について
 - 3 その他
- 5 議 事
 - （1） 河村区長開会のあいさつ
 - （2） 平成 30 年度鶴見区区政会議の進め方について説明
 - 委員からの質問・意見なし
 - （3） 平成 29 年度鶴見区取組み実績・評価について説明
 - ◇ 街頭犯罪・交通事故の少ないまちづくり
 - 委員からの質問・意見等
 - ・交通事故件数を年齢別にみると高齢者やこどもが多いのか、30 代や 40 代にも目を向けるべきで、とりわけ子育て層のお母さん方も自転車の乗り方に危険感を覚える。
 - やはり、件数的に言うとも高校生当たり年齢層も多く、区内の高校でスクエアドストレート学習や、高校生が参加する交通安全週間の啓発キャンペーンも行っている。
 - ・高校生への自転車マナー対策として高校の通学路に先生方が立って実態把

握をすることも考えたらいいと思う。

→ 学校や警察と連携して検討していきたい。また、学校内でも交通安全啓発を図ってもらえるよう依頼していきたい。学校協議会の場等でも協力要請をしていきたい。

- 自転車についてはマナーが中心の取組みとなっているのか。事故が起こると賠償が必要となり、相手方にも迷惑をかけることはもとより、自分だけでなく家族も巻き込んで大変なことになるということも盛り込まれているのか。

→ スケアードストレート学習の場で日本損害保険協会に講話をしていただいた。

- 犯罪の認知件数が減少してきているが、最大の効果は防犯カメラであったという分析結果がある。現在 319 台ということであるが、耐用年数の事もあるので常時 300 台程度が稼働しているようにして欲しい。

- 事業者や法人も防犯カメラを設置しているところが多くある。店舗であれば店舗の入口に設置されている防犯カメラの角度を少し公道側に向けるだけで、防犯効果はあがると思う。協力依頼等して欲しい。

また、防犯プレートに協力事業所名を入れると協力事業者が増えると思う。

→ 引き続き協力事業者を募集するとともに協力事業者と協働して防犯活動に取り組んでいく。防犯プレートへの対応も今後取り組んでいきたい。

- 防犯プレートの設置枚数が 50 枚となっているが、もう少し数を増やすことはできないか。

→ 今後はできるだけ地域の要望に合った枚数を配付できるよう購入していきたい。

- 防犯プレートの色は白色ではなく黄色など目立つ色にしないと抑止効果がないと思う。

→ 今後は目立つ色で作成していく。

- 車上ねらいが多いという理由は何かあるのか。

→ 車上ねらいには駐輪している自転車のかごからの盗難も含んでいる。その注意喚起として、啓発ポスターを作成し区内の企業や店舗に掲示していただく取組みをする。

- ・事業者、法人を巻き込んでトータルに取り組んでいったらいいと思う。例えば防犯カメラの設置場所について公設置分だけでなく民間で設置したものも含めて地図を作成すれば、不足しているエリア等が分かると思う。
- ・協力事業者にステッカーを配付することもいいと思う。
- ・高齢者への交通安全研修会の回数を増やしてほしい。
 - 区として昨年 1 回実施したが、別途鶴見警察も実施している。地域で集まる機会に、声を掛けて頂ければ交通安全研修会を実施させていただく。
- ・ふれあい喫茶や食事サービス時に講習会や説明会を実施してほしい。また、交通安全だけでなく特殊詐欺について説明してもらいたい。
 - 鶴見警察と連携し、特殊詐欺を含めた研修会等を実施していきたい。

☆ 災害に強いまちづくり

- ・6月18日の大阪北部地震時に有効であった通信手段はLINEであった。しかし高齢者向けに行政無線のスピーカーは必要であるが、実際聞こえなかった等の意見もあったため台数を増やしてほしい。
 - 危機管理室が、区内をカバーできるように設置している。行政無線のスピーカーは屋外にいる方用に設置されているため、屋内ではテレビやラジオで情報収集してほしい。
- ・防災行政無線のスピーカー設置を企業に協力してもらうことはできないか。
 - 危機管理室に意見として伝えていく。
- ・高層住宅が多い地域では防災行政無線のスピーカーがほとんど聞こえないという状況である。
 - 順次、危機管理室が防災行政無線のスピーカーをアナログ系からデジタル系に替えていっている。完了すれば聞こえやすい状況になる。
- ・鶴見商業高等学校での防災学習会は助ける側についての学習もしたのか。東日本大震災時に中学生や高校生の力が大きかったとのことである。継続的にそういう視点での取組みを行ってほしい。
 - 昨年は 1 年生を対象にボランティアについての学習を行った。今年度は 2 年生を対象に実施する予定である。

- 避難所開設運営訓練については、非常に効果が期待できるので、重点的に取り組んでほしい。訓練実施時は事業者や法人にも声掛けいただき一緒に訓練を行っていききたい。
また、6月18日の大阪北部地震について、危機管理室が具体的な課題などを整理すると思うので、それを鶴見区に置き換えてもらおうと分かりやすいと思う。
- 安否確認はどうなっていたのか。
→ 今回要援護者名簿をもとに民生委員やつなげ隊の皆さんに安否確認を行ってもらった。
- 避難所開設運営訓練について、リーダーの位置づけ等をマニュアル化し実施していく必要がある。
→ 今年度実施する避難所開設運営訓練はマニュアルに基づく訓練を行う。
また、組織づくりができていない地域は危機管理室や区がサポートし、体制づくりを行っていく。
- 地域によってはマンパワー不足で避難所開設運営訓練が実施できないところもある。他地域で実施される訓練を見学できるようにしてほしい。
→ 避難所開設運営訓練はできるだけ全地域で行っていききたい。訓練の実施情報を各地域と共有できるようにし、リーダー等が見学に行けるようしていきたい。
- 地域で防災士の育成支援ができるようになってほしい。
→ 区で防災士の資格取得の助成についてはむずかしいが、防災士の必要性を周知、宣伝していきたい。
- 区として防災士の認定をするだけでも有意義と思う。
→ 自主的に防災に携わるという意味では、地域防災リーダーの方々と思う。有事の際、どれだけ基本的に動けるのか、内容を整理しながら、初期初動について周知、徹底を図っていく。

(4) 事務連絡